

1. 建学の精神に基づき知識・技術・態度を身につけ優れた実践者としての判断力・応用力
問題解決力が行使できる人材を育成する。

- ・毎朝の職員朝礼、ホームルームでの唱和により、日々、建学の精神に立ち返り教育活動を実施することができた。勤労を愛するについてはボランティア活動に出来る限り参加するよう声かけをした。
- ・年間10回はボランティア活動に参加するというクラス目標を掲げ、取り組んでいる最中である。

2. 全学生の資格取得達成のため、授業評価を用いた授業改善、教材研究、研修に努める。

- ・授業評価を行うことで、教員自身も自身の授業の振り返りをすることができ、授業改善を行うことができた。
- ・オンラインツールや電子黒板などの教材研究や研修を行い、学生へ還元できるよう努めた。
- ・アプリを活用した国家試験対策を1年から3年まで導入し、国家試験への意識を高め、時間を有効に活用した対策ができた。
- ・学生のその日の表情やクラスの雰囲気なども配慮し、一方的な授業にならないように努めている。学生の集中力をみながら、グループワークなどを取り入れている。
- ・授業評価を実施し授業の改善を図る努力はできた。しかし、学外はほとんどいけなかったが、リモートの研修会に参加することはできた。

3. 全教職員が一丸となって教育相談を積極的に行い、学生一人ひとりの理解に努める。

- ・クラス担任を中心に学生一人一人と真摯に向き合い意見を傾聴し真摯に向き合うことに努めた。
- ・また、学生の問題などは運営委員会や学科会議で対策を話し合い対処するよう努めた。
- ・スクールカウンセラーを活用し、学生の精神面でのサポートを行った。
- ・学生個々の問題に対しても、保護者と密に連絡を取り、課題や問題点を話し合い、問題解決に取り組んだ。
- ・学習面だけでなく、進路や生活面においても積極的にかかわり、相談に乗るなどの対応を行えた。
- ・学生の表情や何気ない会話などからも悩みがないか？学習に向けた生活が送れているか？など、気にしながら、ホームルームを行っている。場合によっては、保護者との連携も密に行っている。
- ・定期的に学科の会議を実施し、各クラス、実習のなかで生じた問題を共通認識し、問題解決に向けて取り組むことができた。スクールカウンセラーの面談を実施しておりメンタル面でのサポートも実施することができた。

4. 教員自ら率先垂範し、地域ボランティア活動等への積極的な参加を通して地域に愛される学校づくりに努める。

- ・学生指導部を中心に地域ボランティアへの参加を行い、地域に貢献、根ざす活動ができたと感じる。
- ・令和5年度のボランティアは52件、延べ608名の参加があった。
- ・地区や通学路、海岸の清掃活動や、地域のイベントなど、また鹿児島国体やバリやフリー演劇鑑賞会など学

生のボランティアが大きな力となったものもありました。地域活性のために学生が様々なところで求められていると考える。

- ・小湊小学校の稲作授業や運動会、絵本の読み聞かせ、プール掃除など小規模校では運営が困難な行事に学生がかかわり、小湊小学校や地域との交流が行えました。また、本校の学生の授業の一環としても今後も継続していきたいと考える。

- ・敬老会やゆらおう会など地域の高齢者とかかわることも看護・介護・福祉の学びと同時に地域活性に繋がっていると思えた。

- ・自分自身も地域内のボランティアや学生のボランティア活動の推進にも努めている。

- ・前年度に比較しボランティア依頼の件数も増えていた。地域の清掃活動ボランティアや小湊敬老感謝の日にメッセージカードを配布するなど、工夫して地域との交流を図っていた。学生数の減少によりボランティアに参加する学生の人数を確保することが難しくなっている。

5. 入学時からの進路啓発、進路面談を通して専門職に対する資格意識の高揚を図り、就職100%に努める。

- ・年度初めにも進路面談を行い、資格取得についても話し合い、座学、実技、実習でも意識するよう伝え、その上で現在の進路の方向性について学生と向き合った。

- ・進路ガイダンスでは自分の進路になるかもしれないと考え傾聴することを伝えた。

- ・ハローワークと連携しジョブカードを作成し、ハローワークへの面談も実施した。

- ・進路ガイダンスを行い、実際の病院関係者の声を学生に伝え、進路決定を促した。国家試験合格発表後に就職を決めた卒業生もあった。

- ・第113回看護師国家試験は全国平均を下回る結果であった。学生・教員共に最大限の努力はできたが残念な結果となった。准看護師の資格を取得し医療機関に就職することができた。

- ・介護福祉士国家試験合格率100%を達成することができた。

- ・就職については、引き続き、就職100%を目指していく。

- ・最終学年では、進路ガイダンスや面接指導、履歴書記入指導など、就職に向けての取り組みを行った。看護学科では、国家試験合格に向けて、1年次から少人数のゼミ制を実施するなど学習へのサポートを行った。国家試験合格率は、こども・かいご福祉学科は、介護福祉士100%を達成した。看護学科は看護師国家試験80.5%と全国平均を下まわった。合格率100%を目指して努力したい。就職率も100%を達成できていないので、卒業生のフォローも実施するとともに、就職率100%、国家試験合格率100%を目指していきたい。

6. 教育事務所、地元関係各機関との連携強化に努める。

- ・地区対抗の駅伝などに参加し、また奄美市の成人の集いでも実行委員を務め、あらゆる場面で学生が活躍した。

- ・定住を促す集いでは群島内の高校教員、奄美市、議会、病院や施設関係も参加していただき、連携の強化を図ることができた。

- ・奄美市はたちの集いや鹿児島国体など地元の行政や教育機関への協力が行えた。

- ・小湊町内会との連携によって清掃活動や敬老会などが行えた。また、授業としてのフィールドワークや方言

教室なども地域と連携しながら行えた。

- ・今年度も「若者の定住を促進する会」を開催し、各高校の先生へ本校の存在意義を伝えることができた。
- ・市内の中学校から職業理解や体験学習などで本校に来校してくれた。奄美大島に住んでいても本校がどんなところなのか知らない子ども達も多くいるので、学校を知ってもらう良い機会になった。その中から、将来本校に入学してきてくれることを期待したい。

7. 全職員の協力による学生募集の推進

- ・オープンキャンパスでは、コロナ禍に比べるとオンラインでの参加がなくなり、実際に来校し参加する体験者が増えてきている。しかし、今回の群島内の高校生の入学者が11名しか居らず、かなり少なく卒業後の若者の定住にも影響があるのではと感じる。
- ・中学生向けの職業理解も毎年行われるようになり、早い段階から本校の認知がされるようになったのではないかと感じる。
- ・出前講座では、各中学校や介護施設などからも依頼があり、行うことができた。
- ・SNSに力を入れておりInstagramでは常に最新の情報を発信し、また身近に感じられるような内容とし閲覧者が入学後の自分をイメージできるように務めた。
- ・YouTube動画広告を初めて行い、ホームページへの誘導を行った。今後も活用していき、全国へ発信できるよう務めていきたい。
- ・看護学科では昨年度から総合型選抜(AO)入試を開始した。AOではほぼ予想通りの成果をあげることができたが、島外からの入学が増加し、地元からの進学が低下した。高校生へ地元進学の魅力をアピールする努力が必要。
- ・併設校での説明会や九州管内でのガイダンスに積極的に参加している。
- ・こども・かいご福祉学科独自の体験入学も企画し入学生への募集につなげたい。
- ・ガイダンスや体験入学に参加した生徒が、令和5年度から開始したAO入試を受験してくれた。体験入学では教職員がアットホームな雰囲気に対応しているので効果的だと思う。定員確保は出来ていないので、もっとアイデアを出す必要がある。